

GW三島 地元発ブランド米開発へ 試験栽培に着手

三島市内で遊休農地「ド米開発」に向け、試験を活用した農業事業などを展開するNPO法人グラウンドワーク(GW)三島はこのほど、三島発のブランド米名で田植え式を実施した。

職員や生産者有志ら約10人が参加。約千平



田植えをする参加者＝三島市内

方原の水田に、日本たばこ産業(JTI) 植物イノベーションセンター(磐田市) から提供を受けた開発品種4種類の苗を植えた。

源兵衛川や中郷地区が持つ魅力を生かしたオリジナル米の開発で地域振興につなげようと始まった。4種類の中から生育や味、収穫量などの面で適性を確認し、2～3年で新銘柄の登録を目指すという。

生産者有志の白井幸太郎さん(72) は「中郷独自のブランド米作りの第一歩」と話した。